

最近、やり切れない事件が多すぎる。教師、裁判官、警察官、官僚等々本来ならば社会の模範足るべき者達、恥も分別もある筈の者達の余りにも恥ずかしい行為に驚かざるを得ない。日本社会が溶けていくような気がするのには小生のみではあるまい。そのような社会にあって、少なくとも、自衛官は社会の指標であって欲しいと切望せざるを得ない。これは悪夢だ。同時多発テロによりアメリカの繁栄と安全保障のシンボルが破壊された。一部には、真珠湾と同列に論じる者もいるが無神経な物言いだ。細部は言うまい。何故なら、本紀行は政治的な話題は避けているからだ。L I Cにどう対応するかが今後の課題也。

御殿場買い物に行く時に通行する県道150号：足柄富士公園線（嘗ての鎌倉往還：138号からの分岐地点に鎌倉街道の石碑あり）を上小林に向かっていくと、由緒ありそうな古刹に遭遇する。寺の入り口には丈1メートル余りの石碑、「きやり地蔵尊」と刻されている。裏はと見るに、千社札にも似た講のお札が貼付され、信仰心篤き人々の多いことを伺わせる。木遣り地蔵は御殿場の観光地図にも記載されている。

この寺は、臨済宗建長寺派に属する卓錘山東岳院と称し、地元の人からは、輿樗（きやり）地蔵さんと親しまれている。

縁起によると、今から1300年余前の持統天皇の御代、役行者小角が、霊峰富士の登山を志し、数多の神々と共に、きやり（輿）に乗って「やあさやあさ」と木遣り音頭を唱えながら異口同音で六根清浄を唱えつつ登山をした。須走口に下り、遙かの松中より赫々たる光明現して富士の絶頂を照らした。行者が怪しんで行ってみると、一人の端嚴美麗なる僧が現れ、『我は六道権化の地蔵也。……汝一字を建立して我がこの形を安置せば此の後登山の人を多く利益せん。』と云い終わりにて此の僧、石と化した。

爰に於いて行者は肝に銘じ此処に小堂を建立して此の尊像を安置し奉り、是が即ち当寺の本尊として祀られし地蔵尊（以下略）』これ以来、登山の人々は必ず先ずこの地蔵尊に参詣すればその加護拡大にして計り難し一度結縁の者は無量の罪を消滅し無量の福德を得ること間違いなしと言われ、是即ち地蔵の本願である。

注1：六道とは、全ての衆生が、死ねばその生（しょう）の業（ごう）に従って輪廻転生すると言う六種の世界で、天道、人（にん）道、修羅道、畜生道、餓鬼道、地獄道を云い、このうち畜生道、餓鬼道、地獄道を三悪趣（さんなくしゅ）（三悪道）という。

注2：木遣りは又は木遣り歌とも言う。大木や石を大勢で引いて行くときにうたう歌。家を建てるため柱となる木を切り出して引いてくるとき、音頭取りが材木の上に上ったりしてうたった歌が、字義どおり木遣りであるが、祝儀歌としても民謡の中に定着して今日に及んでいる。建築儀礼などにうたわれ、江戸木遣りなどのように美声の鶯（とび）職に伝承され、棟上げやさらに祭礼の練歌（ねりうた）に転用して使われている。

又、本堂前面左側の小堂は、明治初年にある先達が地蔵院の真正面、富士山6合目の地中より掘り出した地蔵尊像を勧請して祀られた「富士山出現延命子安地蔵尊」である。

写真は下段

東岳院は、幾度か無住の寺となったようだが、文化4年（1807）に、宗仙禪師により再興され現在に至っている。

木遣りに関係あるお寺さんと云うことで、東京のとび職人等の参詣が絶えないようだ。延命子安地藏尊は、安産の靈験あらたかなるということで、近在はもとより遠方よりも参詣者が多い。山中湖の安産祭も最近あったけれども、今でもそうだが、昔は出産というのは女性のみならず地域にとっても最大の事業だったのである。安産を祈願する神社仏閣等は多いようだ。先ず以て母親に感謝する気持ちを大切にすべきだろう。

地藏というのは、大地<クシティ>の子宮<ガルバ>という意味であり、大地は例え裸でも様々のものを生み出す力を秘めているように、地藏は今は菩薩（仏陀になる前の段階にいる人）であつても仏としての豊かな可能性を秘めていることを象徴している。

地藏信仰は平安時代後期以降大いに広まり、鎌倉時代になると、地藏が信者の欲する力を持った人間となって現れたり、危難を被りそうになった信者の身代わりになってくれると言った身代わり地藏の信仰へと発達した。矢取地藏、縄目地藏、勝軍地藏、延命地藏、腹帯地藏、子育て地藏、片目地藏など無数の身代わり地藏が創出された。何れにしても地藏は日本人にとって最も親しみ深い菩薩である。以上のことを念頭に置いて参拝されたら如何だろうか。

（参考：富士山輿樗地藏尊縁起、御住持職のお話、辞典、情報収集には庶務幹部に足労を掛けた。多謝！）

